

利根中央病院泌尿器科における6年間の手術統計 (1987年6月～1993年5月)

利根中央病院泌尿器科 (医長: 竹沢 豊)

竹沢 豊, 大竹 伸明

群馬大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 山中英寿教授)

深堀 能立, 中沢 康夫, 真下 透

中野 勝也, 鈴木 孝憲, 山中 英寿*

STATISTICS ON THE OPERATIONS AT DEPARTMENT OF UROLOGY, TONE CHUO HOSPITAL DURING A SIX-YEAR PERIOD (JUNE 1987-MAY 1993)

Yutaka Takezawa and Nobuaki Ohtake

From the Department of Urology, Tone Chuo Hospital

Yoshitatsu Fukabori, Yasuo Nakazawa, Tooru Mashimo,

Katsuya Nakano, Takanori Suzuki and Hidetoshi Yamanaka

From the Department of Urology, Gunma University School of Medicine

A clinical statistic survey was made on the operations performed at Department of Urology, Tone Chuo Hospital between JUNE 1987 and May 1993.

(Acta Urol. Jpn. 40: 641-645, 1994)

Key words: Clinical statistics, Urologic operation

緒 言

利根中央病院泌尿器科は1987年6月1日に開設した。当院は群馬県北部の沼田市にあり沼田市、利根郡をおもな診療圏としその医療人口は約10万人であり地域の基幹病院として機能している。開設より1993年5月31日までの6年間の手術統計を行ったので報告する。

対象と方法

1987年6月1日から1993年5月31日の6年間の手術台帳をもとに検討した。同一患者に同一手術を複数回行っている場合それぞれ一件として数えた。膀胱全摘とそれにとまう尿路変更術はおのの一件として数えた。膀胱腫瘍、腎細胞癌、腎盂尿管腫瘍の根治的摘出術の際、所属リンパ節郭清は原則として全例に施行しており原発巣摘出手術に含めて数えた。毎年6月1日に医師交代が行われるので6月1日より翌年5月31

日までを1年度とした。

結 果

男女別手術件数を Fig. 1 に示す。1987年度、男性135件、女性30件、計165件、1988年度、男性121件、女性21件、計142件、1989年度、男性158件、女性29件、計187件、1990年度、男性220件、女性40件、計260件、1991年度、男性124件、女性30件、計154件、1992年度男性155件、女性35件、計190件であった。6年間の総計は男性913件、女性185件、計1,098件であった。

年齢構成を Fig. 2 に示す。いずれの年度においても60歳台以上が過半数を占めた。また10歳未満が約1割を占めた。

臓器別の手術について検討した。

1) 腎 (Table 1)

開設当初は PNL を腎結石治療として導入したが1988年4月からの ESWL 保険適応以後腎結石治療適応患者は ESWL のある他施設に紹介しており最近4

* 利根中央病院泌尿器科指導医

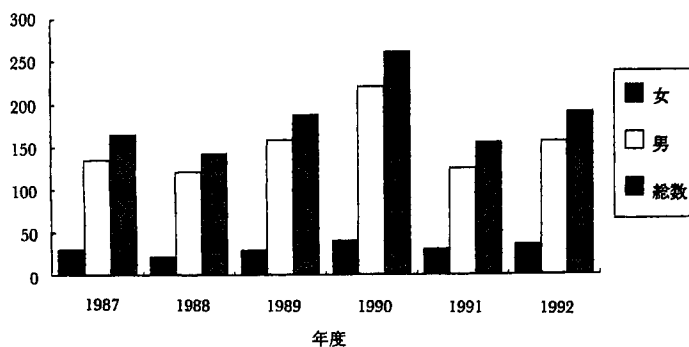


Fig. 1. 男女別手術頻度

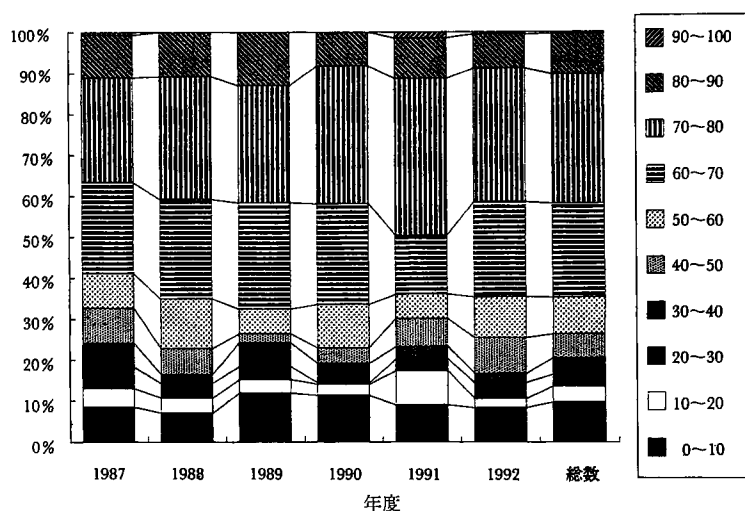


Fig. 2. 年齢別手術分布

Table 1. 腎に対する手術

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	総数
経皮的腎瘻造設術	3	7	8	6	6	7	37
根治的腎摘除術	0	2	0	4	3	7	16
腎嚢胞アルコール固定	1	4	3	2	1	5	16
PNL	8	3	0	0	0	0	11
腎尿管全摘術	2	1	0	1	0	4	8
単純腎摘除術	1	1	1	1	2	1	7
逆行性腎盂造影	1	1	0	0	0	1	3
腎生検	0	1	1	1	0	0	3
腎盂形成術	1	0	0	2	0	0	3
腎盂内高濃度糖液注入	0	0	0	0	0	2	2
開放性腎瘻造設術	0	0	0	0	0	1	1
順行性腎盂造影	1	0	0	0	0	0	1
腎部分切除術	1	0	0	0	0	0	1
腎盂切石術	1	0	0	0	0	0	1
合 計	20	20	13	17	12	28	110

Table 2. 尿管に対する手術

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	総数
TUL	6	2	1	8	1	0	18
尿管ステント留置	2	1	4	2	5	4	18
尿管鏡	0	0	0	1	0	3	4
尿管膀胱新吻合術	0	1	2	1	0	0	4
尿管尿管吻合術	3	0	0	0	0	0	3
尿管拡張術	1	0	0	1	0	0	2
尿管ステント抜去	1	0	0	0	0	0	1
尿管切石術	0	1	0	0	0	0	1
合 計	13	5	7	13	6	7	51

Table 3. 膀胱に対する手術

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	総数
TUR-Bt	5	10	4	11	16	11	57
膀胱生検	4	6	6	6	2	3	27
経尿道膀胱結石摘出術	6	3	5	8	3	2	27
膀胱造瘻術	2	2	3	5	1	4	17
根治的膀胱全摘除術	3	2	2	4	3	1	15
膀胱鏡	0	0	2	0	2	0	4
膀胱血腫除去術	0	0	0	0	3	1	4
膀胱フラップ法	0	0	0	0	0	1	1
膀胱部分切除術	0	0	0	0	0	1	1
合 計	20	23	22	34	30	24	153

Table 4. 前立腺に対する手術

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	総数
TUR-P	27	20	37	33	22	27	166
前立腺生検	20	13	32	33	14	27	139
前立腺被膜下摘除術	8	7	2	7	2	4	30
前立腺全摘除術	0	0	0	1	0	1	2
合 計	55	40	71	74	38	59	337

年間の施行回数は0である。経皮的腎臓造設術は大部分が悪性腫瘍の尿管浸潤により水腎症をきたし double J 尿管ステント挿入不能例に行われた。

2) 尿管 (Table 2)

TUL の頻度が高いが TUL 適応患者も原則として ESWL 施設に紹介している。ただ病院の地域性の問題もあり患者が当科における治療を強く希望した場合 TUL を行った。double J 尿管ステント挿入は悪性腫瘍に後腹膜腔浸潤で水腎症をきたした症例に対して施行した。膀胱尿管新吻合術は VUR 症例に対し Politano-Leadbetter 法で行った。

3) 膀胱 (Table 3)

膀胱結石は尿道の径を上回るものでも超音波破砕器で破砕し全例経尿道的に摘出している。表在性膀胱腫

瘍に対して TUR を施行しているが憩室腫瘍の1例に対しては膀胱部分切除術を行った。

4) 前立腺 (Table 4)

前立腺肥大症患者には全例経直腸超音波法を用いて前立腺重量を推定している。当院は日本泌尿器科学会認定教育施設であり、レジデントが術者を勤める関係から、1時間以内に腺腫切除を終了するため原則として 30g 以下を TUR の適応としている。前立腺被膜下摘除術は恥骨後式で行った。前立腺生検は90年4月以前は Tru-Cut 針を用い、それ以後は Biopsy Gun, Biopsy Needle を用いて経直腸的に施行している。

5) 尿道 (Table 5)

尿道カルンクル切除術および尿道狭窄に対する内視

Table 5. 尿道に対する手術

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	総数
尿道カルンクル切除術	3	3	4	6	5	4	25
内視鏡的尿道切開	1	1	4	6	5	4	21
尿道脱結紮術	1	1	0	2	0	0	4
外尿道口切開術	0	0	0	0	1	1	2
膀胱尿道吊り上げ術	0	0	1	0	0	0	1
尿道下裂修復術	1	0	0	0	0	0	1
尿道断裂修復術	0	0	0	1	0	0	1
合 計	6	5	9	15	11	9	55

Table 6. 陰茎に対する手術

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	総数
包皮背面切開術	4	4	8	12	5	6	39
環状切除術	10	3	4	5	2	6	30
コンジローマ焼却術	2	0	0	2	5	8	17
陰茎生検	0	0	1	0	0	1	2
陰茎折症修復術	0	0	1	0	1	0	2
陰茎腫瘍摘除術	0	0	0	0	0	1	1
陰茎切断術	0	0	1	0	0	0	1
合 計	16	7	15	19	13	22	92

Table 7. 陰嚢内容物に対する手術

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	総数
精巣固定術	10	6	7	15	7	9	54
陰嚢水瘤切除術	1	3	4	4	1	4	17
去勢術	0	2	6	5	1	2	16
精巣水瘤切除術	1	3	0	7	0	3	14
精巣上体摘除術	3	2	3	2	1	0	11
精巣生検	2	1	3	2	0	1	9
精巣付属器摘除術	1	1	1	0	1	2	6
高位精巣摘出術	0	0	1	3	1	0	5
精巣静脈結紮術	0	0	3	0	0	1	4
その他	5	1	3	4	1	1	15
合 計	23	19	31	42	13	23	151

Table 8. 尿路変更術

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	総数
回腸導管造設術	3	1	2	2	2	1	11
コック回腸膀胱造設術	0	1	0	2	1	0	4
合 計	3	2	2	4	3	1	15

尿道切開が大部分を占めた。

6) 陰茎 (Table 6)

成人、小児に対する包茎手術が大部分を占めた。

7) 陰嚢内容物 (Table 7)

停留精巣に対する精巣固定術が最も多かった。去勢

術は前立腺癌患者の抗男性ホルモン療法として行った。

8) 尿路変更術 (Table 8)

全例進行性膀胱腫瘍に対する膀胱全摘術後に行った。術後のよりよい生活の質を目指してできるかぎり

Table 9. その他の手術

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	総数
内シャント造設術	3	11	7	17	13	10	61
内シャント血栓除去術	0	1	3	2	2	2	10
リンパ管造影	1	0	0	13	5	0	19
精嚢造影	0	7	4	1	0	0	12
鼠径リンパ節摘出術	0	0	1	3	1	0	5
精管切断術	2	0	1	1	0	1	5
その他	4	2	1	5	6	4	22
合 計	10	21	17	42	27	17	134

失禁型尿路変更術を施行したいと考えている。しかし、患者の年齢、全身状態を考慮すると回腸導管造設を選択することが多かった。

9) その他 (Table 9)

当院では慢性透析患者の管理は内科と共同で行い内シャント造設、血栓除去術等、blood access 関連は泌尿器科が担当している。透析導入患者の過半数は糖尿病性腎症であった。

結 語

- 1) 1987年6月1日から1993年5月31日までの6年間に男性913件、女性185件、計1,098件の手術を行った。
- 2) 60歳以上の患者が過半数を占め10歳未満の患者が約1割を占めた。
- 3)臓器別には前立腺に対する件数が最も多く、全体の約30%を占めた。手技的には TUR-P が最も多く全手術件数の約15%であった。

(Received on January 28, 1994)
(Accepted on March 14, 1994)